

弔辞

謹んで、故梅原杉雄さんのご霊前に哀悼のことは
を申し上げます。

梅原さん、貴方はこの春、私に「原田君、僕は
百歳まで頑張るから、君は議会歴を重ねた社会の
ために貢献するんだよ」と大きな手で私の手を包
んでくださったました。私も強く握り返し、「百歳だ
よ、百歳まで頑張って」と互いに励ましあったことが
今は忘れられないのできない思い出となつてしまいま
した。

梅原さんとは、私が若い頃から接する機会も多く、その都度「元張れよ、頑張っているかい」と励ましの言葉をかけて頂きました。

やがて遠藤王水師の民謡を共に学び、兄弟弟子として席を並べる様になり、一層の親睦を深めることができ、お陰で多くの人生経験を学び、湯河原町の歴史の一端を深く知ることができました。

梅原さんは地域住民の信望を担い、町議会議員員をはじめ、納税組合や商店会会長など数多くの要職を歴任されてきました。また観光に対する関心も強く、秋の

みかん山が黄金色に色づく頃には、梅原さんが持つ旗を先頭に東京から誘致したお客さんの長い行列の日が続いたことを懐かしく思い起こします。

昭和四十二年にはテレビ東京主催の「町ぐるみワイドショー」コンクールに琵琶を片手に「焼亡の舞」で出演し、全町民がテレビを見るなか、見事優勝し、全国に湯河原温泉の名声を高めたのであります。

そのほか、三島大社や録倉神社などの年中行事にもかかさず参加し親善に努めてこられた奉任の精神に心から感銘いたします。

この秋の文化祭行事には難曲と言われる自作の
土肥実平を演じることを大きな喜びとして琵琶の特
訓に励んでおられたことを思い、哀惜の念に堪えませ
ん。

しかしながら幸いにして、長年に亘り書き綴った
「私の歩んだ二世紀」ふるくと湯河原百話」が昨
年上梓され我々湯河原町民に最高の財産を残
してくださったことと深く感謝申し上げます。

この上は奥様の待つもとへ大分安らかにお休
みください。

長い間、ご指導、ご指援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

合掌。

平成十六年九月一日

原田 洋